



「ハチに刺されたら」



群馬県立西邑楽高等学校

ハチに刺されるのは、ほとんどが7～9月の夏場です。なかでも、巣が大きくなってハチの活動が活発になる9月が要注意です。

★「アレルギー体質の人」や「過去に刺されたことがある人」は、刺されてから15分以内に「**アナフィラキシーショック**」(じんましん、吐き気、呼吸困難など)を起こすことがあります。

そのような時は、対応が遅れると命の危険がありますので、すぐに救急車を呼んでください！



ハチに刺されると・・・

焼けるような強い痛みがあります。(ハチの種類や毒の量、刺された箇所などによって違います。)腫れは2～3日目のが最もひどく、1週間くらいでよくなりますが、その後しばらくかゆみが続きます。



ハチに刺されたときは・・・

- ① 姿勢を低くしてすぐに巣から離れます。
- ② 毒針が残っている時は、つまむと毒を注入するので、横に払って落とす。
- ③ 傷口を水道の水などでよく洗い流し、手で毒をしぼり出すようにします。
(口で吸わないこと)
- ④ 傷口を氷や水道の水で冷やします。
(毒の吸収を遅くすることができる)
- ⑤ 刺されたところに、虫刺されの薬(抗ヒスタミン軟膏)をつけます。
- ⑥ 最低でも1時間は安静にしてください。痛み・腫れがひどい時は、病院へ行きましょう。



※受診した場合、日本スポーツ振興センターの災害給付対象となります。後日、保健室へ来てください。



こんな時は、すぐに病院へ！！

- 全身のじんましん、顔のむくみ、吐き気、呼吸困難、悪寒などのショック症状があらわれた。
- 一度に多くのハチに刺された。

※自己注射薬(エピペン®)を処方されている人は、必要な時は投与を躊躇しないでください。「迷ったら打つ」という感覚を忘れないようにしましょう。



ハチに刺されないためには・・・

- 急な動きをしないようにする。
(ハチを手で払ったり、急に向きを変えない。静かに後ずさりして、巣から離れましょう。)
- 黒っぽい服装を避ける。
- 香水をつけない。(化粧品や整髪料の匂いにも寄ってきます。)
- 大きな声で騒いだり音で刺激しない。
- ジュースなどの飲み残しをエサにするので、放置しない。

「ハチに刺された」といっても、種類によって症状や緊急度が違います。

代表的なハチに刺されたときの症状を紹介します。



ミツバチ



ハチ刺されの中でも比較的軽度で、刺された時は痛みを伴いますが、痛みはだんだん治まります。刺された所は少し赤くなり、腫れます。

足長バチ



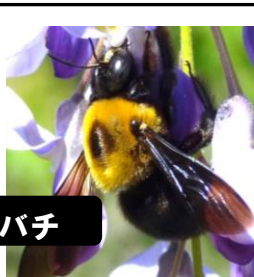
ミツバチに刺された時より強い痛みがあり、大きく赤く腫れます。重症の場合、じんましん、発熱、嘔吐などの症状がみられることもあります。

スズメバチ



ハチ刺されの中で、一番怖いものです。刺されると激痛が走り、広範囲に赤く腫れます。重症の場合、発熱、嘔吐、呼吸困難、肝機能障害がおこることもあります。**アナフィラキシーショック**（アレルギー反応によっておこる激しいショック症状）に陥ると命の危険性も伴います。

クマバチ



大型であるため誤解されやすいですが、ミツバチの仲間、縄張りを主張するため人の周りを飛び回りますが、手でつかんだり払ったりしなければクマバチから刺してくることはありません。たとえ刺されても、重症に至ることは少ないです。